

## 事務局からのお知らせ

### 事務所移転の件

北海道東京事務所は、現在の事務所が古くなり、予めから建て替えを計画していましたが、現事務所を取り壊し、来年度に着工する事が決まりました。1～3月に仮事務所に引越し予定ですが、現在のところまだ発表するに至っておりません。当事務所も一緒に引っ越し予定ですので、何かの機会にご連絡できるとものと思います。

### 23年度活動予定

- 23年 11月 9日(水) 第5回 三役会・理事会  
 12月 14日(水) 第6回 三役会・理事会  
 24年 1月 11日(水) 第7回 三役会・理事会  
 1月 21日(土) 新年交礼会 於:明治記念館  
 2月 8日(水) 第8回 三役会・理事会

- 2月 19・20(日・月) 親睦旅行会(南房総)  
 3月 14日(水) 第9回 三役会・理事会  
 4月 11日(水) 第10回 三役会・理事会  
 5月 12日(土) 第35回 定例総会

於:喜山倶楽部(教育会館)

## 会員募集中!

\*ふるさと会連合会では会員を募集しています\*

平成23年11月30日現在  
**会員数 97 ふるさと会**

北海道ふるさと会連合会は相互交流と親睦を図り、北海道に関わる諸団体および企業会員と協力して郷土「北海道」を応援する、を目的とする親睦団体です。

昭和53年に設立され、現在は97ふるさと会(企業会員11社含む)の加入により構成され、現在加入ふるさと会は増加現象にあります。

平成23年度新規加入のふるさと会のご紹介  
 ひがしかわ東京会(東川町)  
 東京恵庭ふるさと会(恵庭市)

## 東日本大地震義援金について

我が連合会も4月23日の総会で、出席の皆さんに呼びかけ、57,000円の募金がありました。同時に、東京天塩会会長であり、連合会の名誉会長でもある楢木様から金10万円の募金があり、端数は私達3役が負担して、あわせて金20万円也を北海道新聞社を通し、おくりました。1日も早い復興を念じて止みません。

ふるさと会連合会事務局

## 編集後記

農業、林業、漁業、石炭の産業はかつての北海道全体の生活を支えてきた産業でありながらも、少子高齢化、人口減少、過疎化、学校閉鎖、消滅集落、限界集落、駅前シャッター通りの虚しい言葉が流行語のように聞かれて長い年月が経過した。その昔、理想郷が今や絶望郷にも似た様態に変化している。地方自治体が地域住民と共に活性化を試みる。過疎化の生活を守り、食を守り、足を守り、安全を守り、そして土地の風土、文化を守ることに国は地方自治体に丸投げし、自助努力を指示している。そこには、国費を投じて多数の最高決議機関の議員を選出するのであるが、国の保護政策は切り捨てられ、空しい年月のみが経過している姿も観察される。地域は、国に対して僅かな思いやりの姿を期待する。そんな中、2010年都道府県魅力度ランキングが発表された。第1位が北海道、第2位が京都府、第3位沖縄県、第4位東京都の順位となっていた。「ふるさと愛着度第1位」にランクされたことは誇らしいことであり、ふるさと北海道にはまだ沢山の魅力が存在している証であると考えたい。その陰で、外国資本(特に中国人投資家)による森林買収が北海道の地に迫っている。平成22年の関係省庁の統計では北海道内で29件、神戸市で1件の土地買収件数が発生、何れも日本国内で登記したダミー会社が買収を続け、最近では山形県を横断する最上川の源流を私有地として買収していることが判明、その目的を解析していくと「水源」に辿りつく。これらの「水源」は今までも、これからも人間の日常生活上不可欠であり、重要な国策要素でもある。陰にかくれた北海道乗取り、日本乗取り、水源乗取りにはその国の対応策が急がれるところである。第29号会報は8月1日に各ふるさと会を通じて原稿募集を開始、9月10日締切り日には予定の50%が協力提供された。猛暑日により原稿の出遅れが予想されたが、何とか編集会議には80%が間にあつた。各会員参加と協賛による共有情報誌であり、大いなる活用をお願いしたい。今回は、北海道ふるさと会会報第30号の記念すべき特集であり、各会員から沢山の原稿および情報提供を期待したいものであります。今回の表紙は、噴火湾の一角に位置する北海道名勝100選1位に登場している「地球岬」を取り上げました。東日本の震災により、被災地をはじめ北海道ふるさとを含めた国内全体の経世済民が早期に活発化されることを切に願うものであります。

広報部会 小暮安彦